2022 年 9 月吉日

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°37　シャトー・ド・プラド

生産地方：ボルドー

新着ワイン 2 種類♪

AC コート・ド・ボルドー・カスティヨン 2018（赤）

2018 年はミルデューの被害と日照りにより早くからブドウの房が間引きされ収量が大幅に減った年。収穫したブドウは傷ひとつないきれいな状態だったが、房は例年よりも小さく中身はかつてないほど凝縮していた。ベルナール曰く、2018 年はブドウの粒が小さく果汁が極端に少なかったため、ワインはミュールやカシスなどの果実（Fruit）よりも、ビーツなどの土壌（Terre）の特徴が前面に出たワイルドな味わいに仕上がっているとのこと。確かに、ワインはビーツなどの根菜の香りが強く、凝縮した濃厚なタンニンが長熟を予感させる！味わいにも野趣あふれる土臭さ（Rustique：田舎風）があり、今飲むのであればイノシシのシヴェなどジビエ料理がぴったりだ！

AC コート・ド・ボルドー・カスティヨン　エルヴェ・アン・フュ・ド・シェーヌ（樽熟）2018（赤）

ベースとなるワインは通常の AC コート・ド・ボルドー・カスティヨンと同じ。熟成だけ 100%古樽を使用したのがエルヴェ・アン・フュ・ド・シェーヌだ。2018 年は、前年よりも濃厚で果実味に凝縮感があるが、酒質はとても滑らか！また、樽熟の妙味なのか、タンクで熟成させた通常の AC コート・ド・ボルドー・カスティヨンに比べて土臭さがほとんどない！余韻を締めるタンニンはキメ細かいがまだ収斂味が十分にこなれていないので、今飲むのであればフォアグラや肉汁の滴る牛肉のステーキと、熟成を待てる人はあと最低 5 年は寝かせてタンニンがこなれた景色をぜひ見てほしい！それだけパワーがあり Rustique（田舎風）だがテロワールを感じるコストパフォーマンスの高いワインだ！

ミレジム情報　当主「ベルナール・フルニエ」のコメント

2018 年はブドウが早熟の年。また、ミルデューと日照りにより早くから収量が減ってしまったため、残ったブドウはかつてないほど凝縮した年だった。冬は暖かく雨も多かった。発芽は例年よりも 3 週間ほど早く、前年のような遅霜の被害が心配されたが、幸い気温がマイナスを下回るような寒波は訪れなかった。だが、天候は安定せず、6 月中旬まで雨と快晴を繰り返すような天気が続いた。この不安定な天候によりミルデューが猛威を振るい、さらに不運なことに隣接する中国人が経営していたドメーヌが経営破綻し、その放棄された畑がミルデューのクラスターとなりメルローの開花時期を直撃した。これによりメルローとセミヨンの約半分、カベルネは 3 割が花流れに遭った。並行して、5 月 26 日にボルドー一帯に雹を伴った豪雨が降り、左岸のメドック周辺は雹により大規模な損害を被ったが、カスティヨンは幸い被害がなかった。6 月に入り中旬から一転猛暑と日照りが 9 月まで続いた。日照りにより一時成熟にブレーキが掛かったが、早い時点ですでにブドウが間引きされてしまったこともあり、相対的にブドウの凝縮スピードは予想以上に早かった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

6 月の終わりにメドックとサン＝テミリオン周辺を襲った雹、7 月に大規模な山火事と今年は自然災害の話題でニュースを賑わせたボルドー。サンテミリオンと言えば、弊社が取り扱っているプラドとデスクランブが近いということもあり、8 月終わりに畑の状況の確認と今月販売するワインの試飲も兼ねてシャトーを訪れた。

（写真①）水不足で夏バテ気味のメルローの畑

これはメルローの畑の写真。（写真①）パッと見たところブドウの房はどれも健全で、雹に当たった形跡はない。ベルナール曰く、6 月の雹の被害はサンテミリオン北部やポムロール一帯で、カスティヨンは幸い豪雨だけで済んだそうだ。ただ、今年は 6 月終わりに降った 20 ㎜の豪雨以外は 4 月からほとんど雨がなく、畑は水不足にあるようだ。今年の日照りは地下水の干上がった 1976 年の干ばつに匹敵するとのこと。確かに、写真でも、ブドウの葉が暑さと乾燥により裏返って夏バテ気味のように見える。ブドウを何粒か試食してみたが、果皮が硬く、果汁よりもまるで果肉のある食用ブドウを食べているような食感があった。

（写真②）水源のおかげで日照りに強いカベルネフランの畑

（写真②）は、カベルネフランの畑。土壌は雑草も枯れるほど乾き切っているが、ブドウの葉はメルローよりも生き生きとしているように見える。ベルナールいわく、カベルネフランの畑はメルローの畑よりも低い位置にあり、地下には畑を横切るように水源がいくつか走っているおかげで、日照りにはめっぽう強いそうだ。ただ、2018 年や 2021 年のような雨の多い年は、逆に湿気が溜まりやすく病気の被害に遭いやすいデメリットがあるそうだ。「ヨシ、見えるか？この畑の奥に見えるのが、放棄された前中国人オーナーの畑だ。シャトーは今倒産し 2018 年から全く畑の管理がなされていないため、春になるとあの畑がミルデューのクラスターとなり毎年迷惑を被っているのだが、今年は珍しくミルデューの被害がない。言い換えれば、それくらい今年は乾燥しているということだが…」と彼は今年の天候を皮肉交じりに語った。

（写真③）水不足により壊滅的な影響を受けた果樹園

「今年の水不足はブドウ畑よりもこの果樹園を見れば深刻さが分かる」（写真③）ベルナールは、ワイン以外にも自家消費用の菜園や果樹園、そしてウサギや鶏などの家禽を飼育し、半分自給自足のフェルムのような生活を送っている。写真手前の樹は桃の木なのだが、あまりの水不足で桃の実を全く付けなかったそうだ。その桃の木の左奥に見えるリンゴの木には、辛うじていくつか実は生っていたが、暑さと乾燥のためほとんどの実が地面に落ちていた。ちなみに、日照りにより桃もプラムもリンゴもほぼ壊滅という現象はドメーヌ始まって以来のことだそうだ。

ベルナールが再びメルローの畑に戻り、糖度計を使ってブドウの糖度を測った。測定値は何とすでに潜在アルコール度数が 12%もあった。今年はこのままのペースで行くと、早熟だった 2018 年、2020 年よりもさらに早い 9 月中旬の収穫も十分考えられる。天気予報では 8 月の終わりに雨の予報があり、彼はその雨の一降りを期待し、それから収穫に臨もうと考えているようだ。今年は果たしてどんなミレジムとなるのだろうか！？

（2022.8.24.ドメーヌ突撃訪問より）

※弊社ＨＰ「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ